

第 2 回板橋区資源環境審議会清掃・リサイクル部会

(令和 7 年 4 月 23 日 (水) : 午後 2 時 30 分～午後 4 時 30 分)

○資源循環推進課長 それでは定刻になりましたので、これより第 2 回の清掃・リサイクル部会を開催します。私は清掃・リサイクル部会事務局、資源循環推進課長の小熊と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本日は 3 名の委員さまから欠席の連絡を頂いています。本多委員さま、中尾委員さま、豊城委員さまのお三方からご欠席のご連絡を頂いています。また、幹事および事務局職員に変更がありますので、ご紹介させていただきます。幹事の雨谷資源環境部長です。

○資源環境部長 雨谷です。よろしくお願いいたします。

○資源循環推進課長 事務局の関根、板橋西清掃事務所長です。

○板橋西清掃事務所長 関根です。よろしくお願いいたします。

○資源循環推進課長 続きまして、この第 2 回にてごあいさつを頂くこととしていました磐田副部会長さまからごあいさつをお願いします。

○副会長 はい。今回は欠席となり、すみませんでした。芝浦工業大学の磐田と申します。審議会でもお世話になっていますが、研究分野はエネルギーシステムの評価、廃棄物関係では生ごみの分別回収とバイオマス発電、一般廃棄物の廃棄物発電など、取り組んでおります。他市では、さいたま市さんと柏市さんのほうでも、こういった廃棄物関係の部会、審議会委員を務めさせていただいておりますので、何らかのお役に立てますと幸いです。よろしくお願いいたします。

○資源循環推進課長 ありがとうございます。では、ここからは着座でご説明させていただきます。それでは、審議に入る前に資料の確認をお願いします。本日机にお配りしました資料は、机上配布としまして、委員名簿、座席表、ご意見・ご質問シート、そして資料 1 に訂正がありまして、資料 1 清掃・リサイクル部会における検討内容についてです。また、現行計画に記載されている、資源・ごみ量等のアップデートの資料となっています。なお、本日もご欠席の委員からの事前のご意見、ご質問等はなかった点をご報告させていただきます。

また、事前に配布させていただいたものとしては、次第と、資料 1 の訂正があります、資料 2 の（仮称）板橋区一般廃棄物処理基本計画 2035 骨子案たたき台概要版、資料 3、4 として、情報発信・普及啓発計画／発生抑制計画／食品ロス削減推進計画に関する資料・データで以上となっています。不足がありましたら挙手をお願いできればと思います。よろしいですか。はい。ありがとうございます。

それでは、ここからは石垣部会長さま、審議をお願いします。

○会長 はい。石垣です。よろしくお願いいたします。本日は、清掃・リサイクル部会の第 2 回ということで、今後の検討スケジュールについてご確認いただきます。それから、基本計画の骨子案を資料に準備いただいておりますが、こちらについてのご説明と、その中で、さらに具体的に掘り下げてご紹介というかご議論いただきたいというところで、情報発信・普及啓発計画、それから発生抑制計画、それと食品ロス削減推進計画の辺りについてのご説明を頂

くという予定になっています。

それでは、まずは資料 1 を用いてご説明をお願いします。

○資源循環推進課長 はい。事務局です。資料 1 の清掃・リサイクル部会における検討内容についてをご覧ください。本清掃・リサイクル部会は、今年度は 5 回を予定しています。一番右の欄ですが、この 5 回で計画の基本的な枠組みや方向性となる骨子案、そこに具体的な数値目標や事業、取り組みを規定する素案、最終的な案となる原案の 3 つをご審議いただきます。

右から 2 番目の欄は検討内容です。骨子案、素案はそれぞれ 2 回ずつを予定しています。計画全体を 2 つに分け、1 回目は、情報発信・普及啓発計画、発生抑制計画、食品ロス削減推進計画を、2 回目は、再生利用促進計画、収集運搬計画、適正処理・処分計画、生活排水処理基本計画を予定しています。この後のご説明となりますが、本日については骨子案の全体図をお示しし、その後に 1 回目で検討いただく内容をご審議いただくということとなります。以上、よろしくお願いします。

○会長 ありがとうございます。ただ今の件でご質問等がありますか。問題ないですか。よろしければ、続きまして資料 2 です。（仮称）板橋区一般廃棄物処理基本計画 2035 骨子案たたき台概要版という資料を用意していただいていますので、こちらについてご説明をお願いします。

○資源循環推進課長 はい。A3 版になりますが、資料 2 の（仮称）板橋区一般廃棄物処理基本計画 2035 骨子案たたき台概要版をご覧ください。始めに項番 1、左上の計画の基本事項です。本計画の法的位置付け、国や都、清掃一組の法令や計画との関係のほか、前回お示しさせていただきました策定方針内に記載の事項を整理しています。本計画が廃掃法および食品ロス削減推進法に基づくものであること、計画期間として 10 年間であることを整理しています。

続いて、右側の項番 2、区を取り巻く現状です。現行計画の策定時から現在まで、国の内外、または区においてさまざまな変化があります。今回策定する計画は、現在既に現れている変化と今後想定される変化の両方を考慮する必要があると考えています。まずは（1）の国内外の動向としては、①で SDGs の取り組みをお示したほかに②で循環経済への移行を記載しました。国はその下の⑥にあります循環型社会形成推進基本計画の中で、大量生産、大量消費、大量廃棄型の経済、社会様式につながる一方通行型の線形経済から、持続可能な形で資源を効率的・循環的に有効利用する循環経済、サーキュラーエコノミーへの移行を推進することが鍵だとしているものです。

続いて右側ですが、板橋区の地域特性・人口構造の変化です。区の将来人口と外国人人口を上表でお示ししています。令和 6 年度改定の板橋区人口ビジョンでは、しばらくは総人口が増加し、令和 22 年、2040 年をピークと想定しています。本計画は令和 17 年までですので、ピークより前までの計画となります。

続いてその下の（3）は、今後の 10 年間で想定される社会変化です。その中で 4 項目挙げていますが、左上の DX、AI 技術については日々進歩している技術でありまして、今後の廃棄物処理分野への応用が期待されるところです。一方で、その右の少子高齢化では、ごみ、

資源の排出構造の変化が予想されるほかに、安定、継続した処理体制ということであれば、担い手の減少という側面もあります。また、左下の局地的災害の増加については、区の内部において、さらに局地的な集中豪雨などが増加することも想定されるところです。そのほかに、先ほどのサーキュラーエコノミー推進への機運高まりについても記載をしています。この項の現状や将来の変化については、相互に関係する複合的な要素もあると認識して、計画策定に当たってはその点を注視しながら、こういった状況を参照するのが望ましいと考えています。

続いて下にまいります。項番 3、現行計画 2025 における取り組み成果と課題です。こちらは、前回の策定方針で触れさせていただいたほか、これから個々の計画を検討いただく際に改めてご説明させていただければと存じます。

続けて裏面をご覧ください。項番 4、区民・事業所アンケートと組成調査結果です。昨年度、令和 6 年度に、区民および事業所に向けたアンケートを実施した結果および、組成調査の結果です。一番上の項目では、調査結果から集約したキーワードを掲載しています。アンケート結果、調査結果から、意見としてあったもの、特徴とある結果となったものを集約しています。今回の計画への反映を検討するものとして整理しています。項目としては、ごみ・資源の適正な分別、リデュース・リユースの推進、情報発信・コミュニケーション、各主体の役割・連携というところで、以下、その下の部分については、アンケート結果が多かったものや、ご意見があったものについて記載をしているものです。これは、こうした内容を踏まえて検討を進めていきたいと思っているところです。

その下が区民アンケート、事業所アンケートの結果となります。(1) 区民アンケートですが、区民の皆さまへ 2,109 件発送し、1,175 件、そのさらに下の (2) 事業所アンケートでは、2,035 件発送し、894 件の回答を頂いたものです。個々の概要については、この後に、個々の計画を検討いただく際に、改めてご説明させていただきますが、全体として見られる部分としては、区民および事業所の皆さまには、ごみ減量やリサイクルの意識が高い一方で、実際に取り組む際には迷うことがある、あるいはできない部分があるというところが読み取れると考えています。

続いて 2 枚目の資料をご覧ください。2 枚目の上段では、(3) 組成調査というところで、ごみや資源の内訳を示すものとなっています。こちら後ほどご説明しますが、1 点だけ申し上げておきますと、左上の、ごみ組成比率については、現行計画策定時と比較して、厨芥（ちゅうかい）、紙、プラスチックで、変わらずに約 8 割を占めているという状況です。なお、厨芥の割合が増加している部分がありますが、ごみの総量自体が削減できていることから、量としては厨芥も減ということとなります。

続いてその下にまいります。項番 5 の将来像と基本目標です。こちらは策定方針でお示していた、基本理念、達成目標、基本方針、また、右側では各項目の記載事項を再掲しているものです。その他は、策定方針では記載がなかった、一番下の計画目標としての KGI、KPI を検討することについて記載しています。具体的な目標設定については、骨子案の後の素案検討段階でご検討いただく予定としています。

最後は裏面の項番 6、ごみ処理基本計画です。右側にまいりまして、項番 7 の食品ロス削

減推進計画、項番 8、生活排水処理基本計画に関する、それぞれの施策例を記載しています。これらについては、骨子案の段階では、予定する計画の視点や施策の例を掲載します。具体的な施策、重点事項、あるいは通常の事業については、骨子案の検討の後、素案段階で検討、ご審議いただくものとなります。個々の計画については、この後に詳しくご説明するものです。以上で骨子案についてご説明しました。ご審議の程をよろしくお願いします。

○会長 ありがとうございます。ただ今ご説明いただきました資料 2 に関係しまして、何かご質問等がありましたら、挙手にてお願いします。ありませんでしょうか。

○委員 資料 2 の、項番 2 のところです。リニアエコノミーとサーキュラーエコノミーの図がありますが、これは、サーキュラーエコノミーは円になっていまして、そこから廃棄物が出てこないような表現になっているのですが、実際はどこかで廃棄物も出てきますよね。そういうことを考慮した図に換えたほうがいいと思います。環境省のホームページに載っているかもしれませんが、そういうことをきちんと表現しておいたほうがいいと思います。

○資源循環推進課長 ご意見ありがとうございます。実際に策定する時には、そういった点も含めながら資料を作成したいと考えています。

○会長 恐らく、この図自体は、そういう社会を目指そうというところが入っているので、細かいことを言い出すと廃棄物が出てこないではないかというところになってくると思いますが、絵を書き替えるというか、実態に合っているようにしたほうが誤解が生じなくていいかという気がします。ほかにはいかがですか。

○委員 先ほどのサーキュラーエコノミーの図がありましたが、この絵に少し違和感を覚えました。一番上段の一番右側に、サーキュラーエコノミー推進への機運高まりという絵があります。この矢印はリサイクルでも、みんな右回りというのでしょうか、この絵の矢印が逆なのです。矢印の向きが反対のほうが分かりやすいというか、統一して、リサイクルのマークも全部こちら側に行くようになるのではないかと思います。少し、ぱっと目に入っただけなのですが、その辺も統一されていなければ、また絵を描く時に統一したほうがいいのではと思いました。以上です。

○資源循環推進課長 ありがとうございます。今後、作成する際に参考にさせていただきます。

○会長 ほかにいかがですか。

○副会長 はい。2 枚目 (1) 番の区民アンケート調査の、今後の区の取り組み等というところの一番上に、ごみの有料化に関するアンケート調査結果が円グラフで載っていますが、このように聞けば否定的な回答が多くなってしまっただけで当然かと思えます。円グラフで、カラーで目立つ形で載せていることは何か、例えば板橋区では今後も有料化するつもりはありませんというメッセージで、これをあえて載せているのですか。それとも、今後も検討余地があるのであれば、ここまで目立たせないほうがいいのではなかったのですが、意図があれば教えてくださいませんか。

○資源循環推進課長 はい。そちらの細かい意図というものは、例えば有料化をしない方向で考えている、検討するつもりもないというところではなく、今後は当然検討する中で、有料化も含めて、あとは、ある種のフラットな状態というところで考えていますので、そうい

った意味で、特にどちらかの意図でつくっているものではないという状況です。

○副会長 それであれば、これを、そのまま乗せると、なかなかのネガティブメッセージになってしまったりバイアスがかかってしまったりするのではという印象がありましたので、ほかに何か見える化すべきポイントがあるようでしたら、スペースを他のもので埋めたほうがいいのではと思いました。

○会長 そのほかにはいかがですか。

○委員 リサイクルということに関して、最近のリサイクルショップがどんどん多くなってきていますよね。そういうリサイクルショップと板橋区のリサイクル活動のバランスというか、すみ分けのようなことに関しては何かコメントがあったほうがいいのではないかと思います。どうでしょうか。

○資源循環推進課長 リサイクルの進め方という部分では、再生利用促進計画は、今回のリユース・リサイクルの部分になりますので、こちらの記載をする中で、少しそういった視点も検証させていただければと思っています。

○委員 分かりました。ありがとうございます。

○会長 その他はいかがですか。お願いします。

○委員 資料2の項番1の(2)で、言葉の意味が少し分からないのですが、教えていただければと思います。廃棄物から一般廃棄物、産業廃棄物の区分の図に出っていますが、産業廃棄物の右上の、「あわせ産廃」という言葉がありますが、どのようなものでしょうか。

○資源循環推進課長 産業廃棄物は、いわゆる一般廃棄物と合わせて処理をすることができるものというところで、あわせ産廃という表現が用いられているところです。

○委員 ありがとうございます。

○委員 少し補足だけします。プラスチックは産廃なのですが、シールで街角に出れば、それは、あわせ産廃という形で、可燃ごみと一緒に取るという感じだと思うのです。

○会長 ありがとうございます。他はいかがですか。お願いします。

○委員 質問で、2ページ目の4の(1)の下の方で、拠点回収や店頭回収の数字の読み方が分からないので教えてください。例えば古布・古着のところで、可燃ごみ67.2%の後ろに拠点と書いてあって、そちらは10.1%です。これはどのように読むのですか。

○資源循環推進課長 いわゆる可燃ごみといわれるものは、集積場に出すごみです。拠点というものは、区の何カ所かに専用に出す場所があります。それを拠点回収と呼んでいまして、そういった公共施設等におかれている拠点回収に持っていただく方が10%、自分がいつも可燃ごみに出している集積場に出している方が67%という見方になります。お手元の資料ボックスにごみ排出実態調査にかかる区民・事業所アンケート報告書というものがあまして、こちらの37ページが、こちらの調査の詳細となっています。下のほうの割合というところの、古布・古着というところで、区の拠点に出す11.1%、可燃ごみに出す67.2%、その他で、いわゆる資源に出す、地域の集団回収に出す、販売店の回収に出す、その他を含めというところの内訳となっています。

○会長 その他は。

○委員 資料2の1ページ目、項目3の(3)、イのところで、発生抑制計画というものがあ

りますが、いたばしエコ・ショップ（ゴールド）認定数が 2 事業所、平成 28 年度、これは事業縮小のために中止ということになっていますが、結局は、これはどのような事情でやめたのでしょうか。それから、やめたのであれば、方向性は下がる矢印ではないかと思うのですが。

○資源循環推進課長 方向性につきましては、策定当時からどこを目指すかの向きを矢印で示しております。右側の結果をご覧くださいますとこちらのエコ・ショップ（ゴールド）については、事業として、なかなか広がり難しいというところで、いったん中止をしまして、再度検討するということになっております。広がりが難しいということが現状の整理です。

○委員 ありがとうございます。

○会長 その他はいかがですか。お願いします。

○委員 先ほどご質問させていただいた点につきまして意見です。この数字の出し方では、可燃ごみのほうに、ごみとして出されている割合が高いというプレゼンテーションになっています。ただ、もともとのアンケートを見ると、資源に出す、地域の集団回収に出す、販売店の回収に出す、これは実は当初の目的である資源の回収という意味では適正ルートに乗っているのではないかと思います。すべてを区の拠点に持ってきてほしい、何でもかんでも区でやろうということではなくて、マーケットブルなものはマーケットに乗せて、それからいろいろと、自治体が自主的にやっているとか、あるいはボランティアの方がやっているなど、いずれにせよ、きちんと資源が適正な循環テーブルに乗っていればよいというような方向性を出していくほうがいいのではないかと思います。こういう数字の出し方をすると、少し誤解してしまうのではと思いました。

○資源循環推進課長 ありがとうございます。数字の出し方については検討させていただければと思います。

○会長 よろしいですか。私から 1 点だけ、今後 10 年間で想定される社会変化というところで、災害に関することです。廃棄物処理体制の強化、強靱化というところも含めるところですが、こちらが基本方針や基本計画施策例の中では、どこにも書かれていないような気がして、その辺はどこに位置付けられるのかというところを教えていただければと思います。

○資源循環推進課長 はい。こういった、いわゆる局地的災害が発生した場合であれば、処理という部分になるかと思っています。現状はその部分についての細かい記載がない部分については、今後のご審議いただく中で入れるなど、そういうところは検討させていただければと思っています。

○会長 ありがとうございます。他はよろしいですか。具体的な部分は、今日はこの後の資料でも、またご紹介があると思いますので、いったん先に進めさせていただきます。

続きまして、資料 3 と 4 を用いてご説明いただくのですが、ボリュームがありますので、始めに情報発信、それから普及啓発計画の部分についてのご説明をよろしくをお願いします。

○資源循環推進課長 はい。資料 3 については、今回の情報発信・普及啓発、発生抑制、食品ロス削減推進計画の全体に関するデータというところで、参照というところでお示しさせていただいています。簡単にご説明しますと、資料 3 の表側、左側になりますが、現状は住民基本台帳上での人口構成や、あるいは事業所に関する記載があります。

一番上の各年 10 月 1 日現在の住民基本台帳の表を見ましても、令和元年、令和 6 年というところでは、なかなか変化を読み取るのは難しいという部分がありますが、その下の世帯類型別世帯割合ということであれば、単独世帯が増えているということです。また、住居形態別世帯割合ということでも、6 階以上の共同住宅が増加傾向ということがあります。その他、下の区内事業所の規模については、アンケートの部分では 5 人未満と答えていただいた方が一番多いです。あるいは、右側の区内事業所の業種については、さまざまな業種があるというところですが、卸売・小売が最も多く、次いで宿泊・飲食サービス業というところとなっています。

それでは、具体的にそれぞれの項目についてご説明します。資料 4 をご覧いただければと思います。まずは、情報発信・普及啓発計画です。始めに項番 1 として、板橋区一般廃棄物処理基本計画 2025 の実績ということで、現行の計画に基づいて、どのような実績があったのかというものです。

(1) 板橋かたつむり運動の展開です。こちらは重点取り組みにしていますが、普及啓発活動を包括するものとして板橋かたつむり運動というものを継続して用いています。「かたつむりのおやくそく」の標語や板橋かたつむり運動というものは、歌や踊りを積極的に活用しまして、周知、啓発物、あるいは出前講座を含めて実施をしていくものです。

(2) 情報発信媒体の充実です。『資源とごみの分け方・出し方ハンドブック』という、いわゆるごみの分け方が書いてあるハンドブックですが、こちらは令和 5 年度に全戸配布をしています。このほかに、広報いたばしを含む、いわゆる紙媒体、また、公式サイトや SNS などの電子媒体、デジタル、あるいは区民まつりや本庁舎 1 階展示のイベントといったような、紙、デジタル、対面といったところを使った、媒体の多様な展開をしているところです。

(3) 集中的な情報発信の実施というところで、こちら重点取り組みです。こちらについては、代表的な例として、令和 6 年 4 月にプラスチックの資源化を開始しました。その開始に当たり、令和 5 年度に集中的な情報発信を特に強化したという部分があります。先ほどの、対面、紙媒体、電子媒体、こちらの全てを活用して、区の目標としては、あらゆる区民の方がプラスチック資源化に関する情報に触れ、入手できる機会を持つということを想定しているものです。

言い換えれば、どれも見たことがないという方がいらっしやらないような仕組みをつくれればと思っていました。具体的には、住民説明会、こちらは地域のほうに向かい、皆さまにご説明する機会を 47 回、区民まつりのブース出展、『資源とごみの分け方・出し方ハンドブック』の全戸配布、そのほかに SNS 等を実施しました。

少し省略しますが、(4) から (5)、(6) については、子どもたちからの環境教育、社会人のための環境学習、単身世帯の普及啓発については、それぞれに講座やパンフレット、リーフレットその他を使いまして、皆さまに周知を図ってきたという部分です。

次のページをご覧いただければと思います。取り組む指標ということで、まず 1 つ目は、板橋かたつむり運動の認知度です。こちらは策定時には知っている方が 23.5%でしたが、実績は、昨年度のアンケートでは 29.7%ということで若干伸びたという部分です。続いて、ごみの減量に関する出前講座の実施回数です。こちらは、基本的には先ほどの保育園や小学校

に関する出前になりますが、こちらは45回が実績で増加が目標ですが、令和5年度については47回ということで、ほぼ同じ、あるいは微増というところです。最後にリサイクル推進員研究会参加者ということで、リサイクルに情熱のある方に委嘱させていただいていますが、こちらは平成28年度は457人に研修会にご参加いただきましたが、実績値の直近では187名となっています。こちらの理由としては、これまでは板橋区の区主催研修とリサイクルプラザ主催研修の2本立てで行っていきまして、そちらは両方に参加していただくことをお願いしていたのですが、参加率の低迷や実際に参加された方のアンケート等を頂きまして、2回必ず参加という部分を1回に減らしたというところがあります。その関係もあり、人数が減となっているものです。

続いて項番2、現状の分析です。最初に、プラスチックの分別、プラスチックごみの削減です。アンケートの結果、プラスチックの分別回収にはおおむね高い協力が得られていると考えています。認知度としては87.4%、うち協力が93.4%です。この分別以外の、いわゆる買う段階においてプラスチック削減の取り組みをしているという方については、90.9%が何かしらの活動を行っているということです。その下の、プラスチック資源の分別で困ったことや不便なことについては、一番多かったものがプラスチックの汚れを落とすのが面倒70.2%、分け方に迷うもの、分からないものがあるが52.6%という状況でした。

その次に、ごみ、資源の分別収集というところですが、雑がみの資源としての認知度ですが、雑がみを知っていた、一部の品目は知っていた、こちらを合わせて約65%というところで、もう少し数字が欲しいという部分があります。一方で、実際に雑がみを資源として出している方については、そちらの右の円グラフになりますが、49.3%ということで、半数の方は資源としてお出しいただけていない状況です。

右のページに移ります。右側の小型式、小型充電式電池、ガスボンベ・ライターの正しい出し方、認知というところですが、こちらでも小型、それぞれに取り扱いによっては非常に危険なものになりますが、知らなかったとお答えされた方が、小型充電式電池30%、ガスボンベ・ライター18.7%となっています。あとは先ほどもお話しいただきましたが、拠点回収対象であっても可燃ごみとして出されているものについての記載が、古布・古着、その他について、そちらも記載があります。

その下の、区の情報発信、コミュニケーションです。まずは情報源として何を一番用いたかという部分においては、『資源とごみの分け方・出し方ハンドブック』、紙媒体ですが、こちらが最多で64.0%、集積所看板が31.8%ということです。なお、こちらについては令和6年に調査をしましたが、令和5年度に全戸配布をしたというところで、これは毎年配布しているものではないので、5年度に配布したことで印象が強かったというところも想定される部分です。

その下の、情報量・内容についてです。こちらは円グラフで平成27年と比較して記載をしています。右と左で比較をしているもので、右が平成27年、左が令和6年です。この項目の中で、情報量・内容とともに不十分とお答えされた方については、平成27年は45.3%、左側の令和6年は25.9%ということでして、一定の情報量・内容の充実というものを感じていただけたのではと思っていますが、まだ4分の1は不十分ということです。さらなる取り

組みが必要と考えています。

自由意見については記載のとおりでして、分別が難しいことや、その他の PR の方法についてのご指摘を頂いています。

続いて、次の 4 ページをご覧くださいければと思います。これらを踏まえて、項番 3 の振り返りと課題です。丸 1 つ目としては、あらゆる区民がプラスチック資源化に関する情報に触れることを目指すと先ほど申し上げました。その結果として、認知度が 87.4%、うち協力度が 93.4%というところで、一定の成果があったと思っています。一方で、紙媒体が最も情報源として認知をされていたということが分かりました。

丸 2 つ目は、「一方」と記載していますが、同じ媒体で『資源とごみの分け方・出し方ハンドブック』に記載がありました雑がみについては、資源としての認知度が、知らなかった 33.4%と少し低く、約半数が資源に出していません。同じ紙媒体ですが、掲載順や情報量などで、同じ媒体に掲載しても認知度、協力度に差が出ることから、媒体内での掲載方法の工夫、また、他の媒体と連携した発信等、多様な発信方法を検討する必要があると考えています。今回の『資源とごみの分け方・出し方ハンドブック』では、プラスチックを前面に周知を図った部分があります。しかし全てをトップページに持ってくることができないということから考えると、紙の媒体で発信するにしても工夫が必要と考えています。

丸 3 つ目になりますが、正しい出し方が分からない、分別が面倒に感じる区民も一定数おりまして、一步踏み込んだ情報にたどり着けるようにしたり、認知と行動のギャップを埋めたりできるよう、それぞれに合った働きかけを行うことで、おのおのができること、やってみようと思うことを広げられるような情報発信が必要と考えています。先ほどの、認知度と実際の実施度というところでいいますと、いわゆる認知、非常に前向きに考えていただきながらも取り組みが難しいという方がいらっしゃるの、その間を埋めるというところが必要かというところの整理です。また、処理困難物については、発火などの危険がある品目もあるため、安全・安心に排出ができるように、より優先度高く、多くの区民の皆さまに分かりやすい周知が必要であると整理をしています。

最後の 4 は、方向性です。一つのキャッチフレーズといいますかコピーから、「情報を『届ける』から、『伝わり、動いてもらい、共につくる』へー板橋発・自分事になる啓発へ進化ー」というところで、方向性を記載させていただいています。施策例としては、1 として多様な区民像、年齢、言語、生活様式に対応した「伝わる仕組み」へ、伝えるから伝わるというところを考えています。展開としては、紙、デジタル、またはやさしい日本語・多言語対応、または行動科学、経済学を活用した仕組みと考えています。こちらは区民像と書いてありますが、実際は事業者の方々の皆さまも含めてというところで、少し記載については、区民像、事業者像というところについての検討をしていきたいと考えています。

続いて 2 番は、「伝える」から「動いてもらう」区民との共創型情報発信へというところ です。これまでも、前回のご議論、ご審議の中でも、現状でも区民の皆さまには非常にさまざまに取り組んでいただいているというお話も頂きました。足りないのでもお願いしますというより、今現在もご協力いただいているのですが、さらにというような仕組みの発信を考えているところです。そういった点で、区民とつくるストーリーと書いていますのは、今現在で

も非常に取り組んでいるということのを可視化して、皆さまと共有したいという意図です。

最後に項番 3、正しい出し方に気付ける仕組みづくりというところで、こちらも前回、なかなか処理困難物の排出方法の、知識のアップデートの難しさというご指摘を頂いた部分です。こういったものについて、いわゆる取り扱いが変わったもの、より危険性が分かったもの、あるいは正しい出し方等、こういったものについての適切な排出を支える情報提供というものを、一つ項目出しをして、施策例として挙げているという状況です。

まずは、情報発信・普及啓発計画については以上です。よろしくお願いします。

○会長 ご説明ありがとうございました。ただ今の前半部分について、情報発信・普及啓発の部分について、ご意見、それからご質問等ありましたらお願いします。いかがですか。お願いします。

○委員 ご説明いただき、ありがとうございました。最初は計画の構成がよく分かっていなくて、資料を読んでいてとても混乱したのですが、ただ今のご説明を聞いて、今の 2025 バージョンを見せていただいて、なるほど、このところに今の情報がはまるのかと思いながら読んでいました。

それで、資料を拝見させていただいた時に、情報発信・普及啓発計画の最初のところで、少し分からないと思ったのが何かというと、これは何のための情報発信・普及啓発計画なのだろうということです。もちろん廃棄物を適正に処理することや、さまざまな施策を進めるための情報発信・普及啓発なのですが、ただ、この構成案を拝見させていただくと、まずはここに基本理念が書いてあって、その後にやらなければいけないことというものが書いてあります。そこを結ぶところに普及啓発・情報発信が入ってくると思うのです。なので、何を伝えたくて、だからこれをやりますという書き方をしないと、腑に落ちないところがありました。

さらに申し上げますと、今ご説明いただいた発言の中で、最後のところの方向性の 3 つ目が、正しい出し方に気付ける仕組みと書いてあるのですが、後ろのほうには発生抑制の話などがあります。なので、その辺の整合性が取れていたほうが、頭の中に入りやすいのではないかと思います。

もう 1 つだけ申し上げますと、一方で、基本になるところに書いてある循環型社会の実現や、循環型廃棄物処理システムの構築などは、理詰めでやっていくところと、それから日々の行動で、より適切な行動を取ろうというように、意思決定の時に、さまざまな要因によって行動が否定されるところの部分だと思います。それは具体的に何かというと、社会的慣習の一般化なのだと思うのです。区の計画の中にそういうことを書き込むことの意味は、この区ではこのように発生抑制をしていて、このように適正分別をしています。そこから先は、非常にシステムの上に乗っていて、きちんと処理がされていますという最初のところの、みんなが発生抑制をしようなどという、そういう心持ちを共有するということで、社会的習慣を、板橋区のそういう文化をきちんと定着させていくのだというところを目指しているのかと思ったのです。それを文化と呼ぶ方もいらっしゃるのですが、そういうことをきちんと伝えようと思うと、繰り返しになりますが、将来像と基本目標と、後半のハードの施策のところをどのようにつなぐのかということです。今あるコンポーネントを生かしつつも、しっかりと

それを説明されたほうが、初見で読まれた方には、腑に落ちるのではないかと考えました。

○資源循環推進課長 ご意見ありがとうございます。実際にそういった情報発信に当たって、理解いただく、そして、実際に活動、行動していただくというところまでデザインしながら見せ方の検討を進めていく必要があると思っています。こういった方にどのように読まれるか、あるいは、こういった方に腹落ちして行動までつながるのかというところについては、少し表現の工夫等をさせていただければと思います。

○会長 そのほかに、ご質問、ご意見等はいかがですか。

○委員 2 ページ目のところですが、リサイクル推進委員研修会参加数という項目がありました。それで、カウント方法が変更になったので、457人から令和5年度は187名に減っていますというご説明があったのですが、実際に私も研修制度があるということを知らなかったもので、要は区民全体に対して、何人に1人、研修を受けた人がいるのかということを見ると、とても微々たるものですね。なので、そのパーセンテージをどうやって上げていくかということ考えた場合に、単にいろいろな媒体で呼びかけるだけではなくて、例えば区の中にある組織体を使って、自治会組織でもいいですし、業界の組織でもいいですし、そういうものと連携しながら研修会に来てもらって、数を増やしていく。例えば5年後には、住民の100人に1人は研修を受けた人がいます、自分の住んでいるエリアに何人かは研修を受けた人がいますという形を目指すなど、そのような展開ができないか考えたのですが、いかがですか。

○資源循環推進課長 ご意見、ありがとうございます。リサイクル推進委員については、地域からご推薦いただいた方が600人ぐらいいらっしゃいまして、そちらが現在は少し減ってきていて、500人ぐらいになっているところがあります。こちらについては、行政監査等でも指摘をされているところで、いわゆる若い方にどのように入っていただけるのかという点に、もっと注視するべきということもお話、ご指摘いただいています。それに対して区では、いわゆる公募枠というものを新しく設けて、学生さんでも入っていただけるような仕組みをつくって、少し新しい方々に入っていただくという工夫はしているところです。

そういったような点が今後のリサイクル推進の拡大という面になります。また、研修会については、600人超の実際の参加率としては30%から40%というところです。こちらについても基本的には、これまでの平成28年から令和5年までについても、大体30%から40%にご参加いただいている部分がありまして、それはあまり変わっていません。ただ一方で、母数が減っているということがありまして、実績値が減っています。そしてカウントが変わっているので、人数が変わったという部分があります。なので、そういった意味で、まずはリサイクル推進員をいかに増やすのかということは、今は試行的に行っている部分があります。こちらの検証と拡大、また、研修会に、より来ていただく仕組みについても少しコンテンツを、実際に区の制度が、制度自体はそこまで毎年変わるものではないですが、その時々の特ピックというものもあると思いますので、そういったものを取り入れながら、行くと学びが多いというような研修会については、引き続き努力をさせていただきたいと思っています。

○委員 すみません。関連した質問で、リサイクル推進員というものは、地域から選ばれた人が委員になるのですか。

○資源循環推進課長　そうです。地域からご推薦いただいた方がなります。

○委員　研修会で公募して参加してくれた人が委員としての資格を持つなどという形ではないのですか。

○資源循環推進課長　2つのルートがありまして、各地区からご参加いただく方と、公募として委員になっていただく方の2つになります。

○会長　ほかにはいかがですか。

○委員　この基本計画の基本事項として、サーキュラーエコノミーというものをうたっています。結局、私たちは食品や、そういうものをいただいて命をつないでいるわけですが、そのために入れ物があるので、生身のままでは買えないというところがあります。やはり区に入る税金をどう分配して、このサーキュラーエコノミーとして無駄なお金を使わないでやるか、そのためにはどういう啓発をしたらいいのかというところだと思います。

それで、本日時間より早く着いたので、1階受付で「転入してきたらどういうことを、ごみを出す時にやったらいいのでしょうか」と尋ねたら、いきなり「7階に行ってください」と言われました。初めはパンフレットを探していたのですが、どこにお問い合わせくださいや、QRコードなどもなかったのです。本日いただいたこのハンドブック令和5年度に全戸配布した実績となっておりますが令和6年度はもらっていない方がいるということでしょうか。

「かたつむりのおやくそく」等のとりくみもあるようですが、いつ排出したらいいのかということは、具体的にはごみカレンダーがわかりやすいと考えます。ごみカレンダーを見ると、一目で今日は何を出すのかなど、それに基づいてきちんと絵で描いていますね。割とこのハンドブックでも絵で示していますが、細かいところは、この2ページ目に入ると、何々地区の可燃ごみは何曜日、何曜日と書いてあるのですが、やはりそれだと一目で分かりづらいのです。私の住んでいるところは、町名で2つの大体同じ回収なので、絵もきちんと付けて、それでも分からない時は最終的には自治体から来るごみカレンダーを見て分別していくというところがあります。

そのようなところについてもう少しきめ細かな対応が望まれます。回収は私たちの税金で、お金で成り立っています、そこをどう使うか、子どもの教育のために使うのか、回収に使うのかということです。そうすると、無駄なものを買ってこないなど、サーキュラーエコノミーという概念がきちんと根付くのではと考えます。

そうしないと、結論としての環境教育は、何でもかんでも環境教育だと言われると、もう少し循環型、エコノミーに対する視点で、環境教育は、どうしても板橋の場合は、生き物や緑など、そちらのほうに行ってしまうのです。私もいろいろな学校を見て、今日も1階で、人権教育をしている学校の生徒さんの書いた素晴らしい作文を読ませていただきましたが、何でも情報として出しているのも、あとは自分の責任だということではなく、もう少し、腑に落ちる展開が必要なのでは、という印象を受けました。ありがとうございます。

○資源循環推進課長　ご意見ありがとうございます。ハンドブックですが、令和5年度に全戸配布したほかは転入者の方に配布していますので、新しくきた方にも行き渡ります。

ハンドブックの記載は、これだけ分量がありまして、カレンダーでは一目で分かるというようなお話があったと思います。地区ごとのカレンダーについてはホームページで公開とい

うことで、それだけは紙で配っているものではないという部分があります。実際に今後の進め方といいますか情報発信については、いわゆるハンドブックについては、見たら、細かく見れば分かる部分と、例えば動機づけとして、一目で見て分かるという部分とは、また少し毛色の違う資料となっています。そういった点で、一目で分かる部分と、より良く調べるところを、どのようにバランスを取るのか、こういった情報のバリエーションをどのように設定するのかというところと、実際に区民の方から、先ほども「やっていることは知っているけれども、雑がみの内訳が分からないです」など、そういったところをつなげるために、もう少しコンパクトな雑がみだけの資料をつくるなどを考えています。そういった、いわゆる詳細、辞書的に調べたいもの、あるいは啓発的に、すぐに見てすぐに動けるものというものの使い分けというものは、今後の、より伝える発信という点では検討すべき内容だと思います。

○会長 ほかにいかがですか。お願いします。

○委員 資料4の4ページ、項番4の方向性（施策例）の2番のところで、『伝える』から『動いてもらう』、区民との共創型情報発信へ」と、非常に素晴らしい書き方をされていると思います。具体的に区民とつくるストーリーということで先ほども説明があった中では、活動を可視化して共有した上で、ストーリーとして進めていくようなお話をされたかと思います。実際にペーパーで受ける部分としては、ペーパーで見るとか、いわゆる情報としてホームページ等で目で見ることが第1になると思うのです。その第2のステップとして、どうやって区民の方に落とし込みをしていくのかということが、今の段階では、まだ具体的になっていないのかもしれませんが、どのような方向性を考えておられるのか、その辺を少しお尋ねしたいと思います。

○資源循環推進課長 はい。こういった仕組みについては、こういった媒体については、紙と電子と対面というところが、いかにそれを組み合わせながらというように思っていて、昨今ではそれを動画にすると分かりやすいなどということがありますし、あるいは対面の機会、実演で何か分かるものというものもあると思います。そういった、紙で、いわゆる文字と絵だけでは分からない、動いたものが分かる、あるいは実際に目で見て分かるについては、こちらも何かできると決まっているわけではありませんが、当然、これからの情報発信というものは、そういうものを組み合わせていくのが必要と考えているところです。

○委員 ありがとうございます。

○委員 細かいことなのですが、今の、どうやって分けるのかというのは、実は資源回収などに行った時に、そこに詰めていらっしゃる自治会の方などが丁寧に教えてくれるのが一番分かりやすいです。紙などで勉強していくのですが、やはりできなくて、「そこは少し違うわよ」などと言われて、そこでフレンドリーに教えていただくのが一番ではないかと思います。そういうソフトウエアも組み合わせながらということがいい方法なのではないかと思います。

○会長 人的資源も無限ではないですし、もっと分かりやすくという、これだけの情報を出して、これだけのものを配っていて、さらにやらなければいけないことを増やすのかということも考えられます。やればもっと伝わるかもしれませんが、やはりそこは費用対効果なども考えてやっていただければと思います。

一つ、私からは、コミュニケーションということで、宣言というか、していただいたのは非常にいい方向性だと思います。残念ながらごみアプリはなくなってしまったのですよね。ITA-Port はやめてしまったので、そこ経由での情報はなくなったのですが、LINE や、板橋区、資源環境部全体か分かりませんが Twitter もやっていて Instagram もあります。その辺に、ぜひ区民の皆さんも、参加型というか、単にチャンネルを通じて情報を出すだけではなくて、うまく区民の皆さんにも参加していただくことで盛り上がるというか、俗っぽく言うとバズるような仕掛けをつくっていくことで、情報がどんどん、必要な情報だけではなくて周辺情報を含めて、いろいろなことが世の中に広まりやすくなっていくということを考えることは重要だと思います。

このハンドブックの認知というか、情報源として使われていることはいいことなのですが、10代、20代には、少しそこは低いです。紙から情報を得るということに対する文化もだいぶ薄れてきていますし、そもそも、ごみそのものにあまりご興味がないのかもしれませんが、やはりそういった人たちにもアプローチしていく、いろいろな仕掛けというようなものはしていく必要があると思います。ぜひ、その辺も、具体的な施策を考えていく中では含めていただければと思って、ご意見をさせていただきます。

ほかにはよろしいですか。

○委員 雑がみは、結構いきなりハードルが高いのだと思うのです。菓子箱など、そういうものは、みんな捨てやすいというリサイクルに出しやすいというか、ビニールに入れなくても、見られてもいいやという部分なのだと思います。書類やペーパー類は、人によっては機密性というか、見られたくないなど、いろいろとある中で、そういうものを「一緒に紙袋に入れて出してね」と言われても、「いや、やっぱりこれは見られたくない」など、そういうことはあると思います。まずは菓子箱のようなものからやっていって、やっていく中で収集を考えながら、安全に出せると思います。ごみは結構危険な部分というか、存在確認もできるからいい部分もあるのですが、いない、いるなど、家庭の内容も見えてしまう部分もあります。その辺りは少し考えながらやっていかないと、ハードルが高過ぎてしまって、みんなやりづらいということになっているのではと思います。菓子箱だけでもやってくださいなど、そういうことでも少しずつ少しずつ進歩していくのではと思います。いきなりハードルが目いっぱい高いと、皆さんはどうなのかなという部分も、紙は個人情報等もありますので、こういう意見を言わせていただきました。

○資源循環推進課長 ありがとうございます。いわゆる雑がみというように、大風呂敷を広げるといいますか、そうすると、例えば雑がみの中のこれだけを捨ててみませんかというような、少しハードルを下げるということも一つの工夫なのではと思っています。

○会長 ありがとうございます。

○副会長 こういうキャッチフレーズで書いていただくことは、とてもいいことで、分かりやすいと思います。「伝わり、動いてもらい、共につくる」これ自体はとてもいいと思うのですが、私は最初に「共につくる」というものを見た時に、何をつくるのかが分かりませんでした。この文脈でいうと、情報を共につくるのか、それともごみのリサイクルの循環を共につくるのか、それが少し分かりにくいです。

2 ぽつのところで共創型情報発信へとあって、先ほど会長がおっしゃったような、双方向型で区民の方と情報共有しながら発信していくようなイメージになかなか出来ませんでした。あまりにも抽象的で、ストーリーや行動の可視化などを、もう少し具体化していただくほうが伝わるのではないかと思います。

○会長 ストーリーということは、キャッチフレーズとしては非常に重要で、いい言葉だと私も思っています。例えば海洋プラスチックや資源循環は、板橋区だけではなくて国全体であれだけの情報発信があって、普及というか協力していただけるようになってい我想います。やはり海洋プラスチックの問題など、プラスチックをきちんと資源循環で回さないという問題が起きるということを皆さんが理解しているからこそ、そういう協力も進むということなのだと思います。

やはり雑がみなども、これを協力しないとどうなるか、協力するとどういうことが起こるかということをよく理解してもらう、その辺を含めてのストーリーなのだと思います。そういうものをここでは「共につくる」と言っているので、そこまで巻き込むのは難しいかもしれませんが、ナラティブに、なぜそれが必要なのかということまで、情報というよりは、お話というか、つながりとして発信なり理解してもらうということも、ぜひやっていただくということも含まれているのではと期待しています。ですので、具体化できるところは、どんどん具体化していただければと思います。

○委員 すみません。2点あります。今の「つくる」のところにに関して、僕はこれを読んだ時に、循環型社会をつくると書いてあるのだらうと読んでしまいました。これは1点目のコメントです。

2つ目が、これは後段で書いてあるのですが、板橋区として分野横断的にさまざまなことに取り組まれるということが、基本構想や基本計画のほうで真剣に議論されています。それは、この廃棄物処理に関しても同じことが言えると思います。後段で、例えばフードドライブなどを福祉局さんと一緒にやるなど、いろいろなことが書いてあって、あるいは発生抑制のところは産業振興のところとも関連してくるなど、そういう分野横断的な取り組みがあるのだと思います。そういうことも方向性の一つとして、きちんと位置付けていくと、基本計画で出ている大きな方向性とも整合できて、なおかつ、区民の皆さんとの共創と書いてありますが、庁内共創なども進んでよろしいのではないかと思います。よろしくお願いします。

○委員 清掃工場などの見学は非常に多いのですが、リサイクルの現場の見学は意外と少ないのです。いろいろな冊子などがありますが、もし区内で、そういうリサイクル施設の見学ができますという業者があれば、それを載せておいて、役所のほうが窓口になっていただいて、応募があれば実際の現場を見てもらうのはいかがでしょうか。現場で体感するのと、それから映像で見ているものは、ものすごく違います。区によっては、夏休みに親子で見学できる企画がありますので、そういう企画も、もしできれば、こういうものの中に入れていただければ、業者としてもそれに協力することは、やぶさかではないと思います。

○資源循環推進課長 ありがとうございます。やはり実際に現物といいますか、現場を見ると、非常にインパクトというか大事だと思っていますので、そういった実物を見られる仕組みも併せて、啓発については検討していこうと考えています。

○**会長** 少し時間も押していますので次に進めさせていただければと思います。また最後に、戻って追加でご発言いただいたり、後ほどでも結構ですので、よろしくお願いします。

続きまして、同じ資料で、後半の発生抑制計画と、それから食品ロス削減推進計画です。こちらについてのご説明を、よろしくお願いします。

○**資源循環推進課長** はい。資料 4 の、ページとしては 5 ページになります。発生抑制計画（リデュース）の部分です。1、板橋区一般廃棄物処理基本計画 2025 の実績、現行計画の実績です。こちらは、これから発生抑制と、その後の食品ロス削減推進計画について続けてご説明させていただきます。今般、現行の 2025 計画では、重点的な取り組みとして、いわゆる生ごみや食品廃棄物に関する取り組みという部分を強化している部分がありますので、併せてご説明させていただければと思います。

まずは（1）の家庭系生ごみ減量・資源化の促進です。こちらについては区のほうで取り組みを進めています。丸 1 つ目になりますが、生ごみの水切り等、家庭でできる生ごみの減量化についての普及啓発を行っています。12 月から 1 月までを、いたばしみんなの食べきりチャレンジ月間として行動を呼びかけて啓発を実施しているほかに、これは令和 6 年から通年化をしています。広報いたばし、区公式サイト、SNS、区民まつりイベント等で発信をしているものです。

続いてフードドライブですが、令和 2 年度からは 18 地域センターを常設窓口として開始しています。令和 4 年度からは、子ども家庭総合支援センター、区内店舗、民間の区内店舗 3 箇所にご協力いただきまして、新たに常設窓口として参加いただいています。回収量は、令和 3 年から令和 5 年まで一貫して増加しているという状況です。令和 5 年実績は、そちらの 6,300 キロです。

また 3 つ目ですが、コンポスト容器での堆肥づくりの方法を発信、地域コンポストおよびリサイクルプラザコンポストの実施です。区では、以前はコンポストの助成をしていましたが、実績が上がらなかったことから、現在は実施をしていません。一方で、地域コンポストということで皆さまにご参加いただいているところが、区内に計 3 箇所という部分でもあります。

また中段に、講習会、親子でチャレンジ！生ごみ変身大作戦と書いていますが、こちらは、いわゆるお子さんの夏休みの期間に、こういった、いわゆるコンポストという取り組みをしてはどうか、自由研究その他で活用してはどうかというところで、夏に設定をしまして、そちらの実践的な講習を行っているものです。

また、最後になりますが、食品ロス削減レシピをホームページ等に掲載しているほか、令和 6 年度にレシピコンテストの、いたばし食べきりレシピコンテストを開催しています。こちらについては、家で余りがち、捨てがちなものといったもののレシピを応募していただき、区で選定をして、賞を設け公表するものです。

続いて、（2）事業系生ごみ減量の促進です。こちらは主に先ほどの、「いたばしみんなの食べきり運動」というところでご協力いただいています。飲食店との連携を行っています。

最後の、フードシェアリング、「いたばし×タベスケ」については、令和 5 年度から実施している事業で、いわゆる賞味期限が近いもの、消費期限が近いものについてお店から提供し

ていただいて、それを区民の方が少し安く買うという仕組みの実施を開始したところです。

その下のリサイクルプラザを拠点とした活動については継続して実施をしまして、不要となった衣類、雑貨、家具類の引き取り、展示・販売を継続しているものです。一番下については、先ほどの、いたばしエコ・ショップの募集停止をしたという部分です。

続いて次のページ、6 ページです。取り組みの指標です。フードドライブの実施回数は、平成 28 年当初はイベント的に行っている部分がありましたが、令和 5 年、6 年、現在においては、いわゆる常設窓口というところで実施をしています。

そのほか、その下のリサイクルプラザの来館者数は、2 万人から 2 万 6,000 人というところで、こちらもコロナ禍でいったん減少していますが、戻っているという状況となっています。

その下は現状の分析です。資源とごみの量については、指標 1 にありましたとおりに、区民 1 人の 1 日当たりの資源・ごみの量は減少傾向です。集積所のごみの組成比率については記載のとおりとなっています。右側は、リデュース（発生抑制）やリユースの取り組みや意向というアンケートで、家庭、区民の方向けのアンケートです。最初は上ですが、92.8%が何らかの食ロス削減に資する取り組みを実践しているという結果が出ています。また、さらに何かという部分で、料理の持ち帰りや量の調整等を飲食店に希望されている方が一定数、先ほどの料理の持ち帰りであれば 58.7%いるという状況です。あとはフードシェアリングサービス、タベスケは 53.0%が機会があれば利用したいとお答えいただいています。

続いて、リサイクルショップやリユースショップについては、55.0%が利用しているという状況です。また、ネットオークションやネット上のフリーマーケットについても 38.9%が利用しています。こういった取り組みというところで、区民の方が、いわゆるリサイクル、リユースのサービス、要するに民間サービスを利用されているという状況が見て取れるのではと思っています。ただ、一方で、インターネット、アプリのリユース方法に関する講座や情報提供については、20%が、そういった講習があれば参加してみたいというお答えを頂いています。

続いて、その下は事業所です。今よりも、ごみ減量・リサイクルをできるかできないかということについてお伺いしたところ、今よりもごみ減量・リサイクルができると思うという事業者は 20%で、皆さんは一定数、さらにできるというご意向を持っていると考えています。

その下は 1 つ飛ばしまして、実際の、飲食店における食ロス削減の取り組みの実施は、ご飯や麺などの量の調節が 26.7%で最多でした。小盛り・ハーフメニューの設定、開店間際、消費・賞味期限切れ間近の値引きが 19.8%というところで、飲食店の皆さまについても、一定のご協力といいますか、削減の取り組みをいただいていると考えています。

自由意見については、フードドライブの取り組みをもっと広げてほしい、生ごみの助成をお願いしたいといったところのお声を頂いています。

続いて 8 ページをご覧ください。これらを踏まえて、項番 3、振り返りと課題です。丸 1 つ目は、資源・ごみの量は着実に減少しています。家庭や事業所での発生抑制の取り組みが行われていると整理をしています。

一方で、丸 2 つ目ですが、さらなるごみ減量のためには、行動経済学の理論等、最新の技

術や知見を生かしながら、区民や事業所の皆さまが自然と取り組めるような仕組みの構築を検討する必要があると考えています。

3 番目ですが、発生抑制策として、**2025** については、現在は生ごみを中心に実施をしていますが、ごみの組成というところであれば、厨芥、次いで紙、プラスチックと、これで全体の 8 割になります。3R の最優先がリデュースということですので、厨芥以外の紙、プラスチック、プラスチックについてはリサイクルについても少し取り組みがありますが、まずはリデュースというところで、そちらについても記載が必要だと思っています。

最後の丸です。プラスチック発生抑制、食品ロス削減等についての実践度は高いと思っています。さらなる取り組みや、例えば先ほどの持ち帰り、量の調節等への関心・許容度があり、また、リユース、リサイクルに関する関心も高く、こうした関心の高さを実際の行動につなげることが必要であると整理をしています。

最後は項番 4、方向性、施策例です。『『もったいない』を行動へ。家庭も、事業者も、減らす力を“後押し”する』です。

1 つ目は、家庭系・事業系別アプローチです。まず家庭系については、生ごみ、厨芥とありますが、それ以外の紙、プラスチックについても、重点的に取り組みをしていくと考えています。事業系については、飲食店、小売店、飲食店が、元は食品廃棄物といいますか、厨芥が多い部分がありますので、そういった点も踏まえて、特徴的に多い部分がありますので、重点支援を考えています。

項番 2、行動変容を支える見える化とナッジというところ です。こちらはデジタルを活用した成果や望ましい行動の可視化、水切り、フードドライブというところ です。先ほどの情報発信と関係する部分がありますが、今は取り組んでいる状況で、どれほど区全体のごみ量が減少しているのかという大きな視点もありますし、例えばチェックシートのようなものを設けて見える化を図ることによって、そういったごみの減量が自分で見えるようにする、あるいはチェックリストを設けるなど、そういった、思わずやってしまう取り組みを活用することで、個人あるいは事業所レベルのものと、あとは全体のものというところで、進んでいる実態を共有しながら進むというところを考えています。

最後に、リユースの取り組みの実施や支援、シェア・サブスクの周知・啓発です。この後のリユース・リサイクルの部分にもかかる部分がありますが、まずはリユースとしても一つ加えさせていただいていまして、フリマ・リユース拠点の支援、周知、回収品の地域内循環、行政主導のリユース品マッチングということを設定しています。フリマ・リユース拠点については、いわゆる民間サービスや、そういった、区以外のところでも実施しているものがあります。全区が実施するというのではなく、既存のサービス等があれば、ぜひそれを活用していただくような啓発を図ります。また、それ以外にも、現在はリサイクルプラザで行っているリユース品については、こちらは区で行っていく部分です。そういった点で、全てを区が行うということではなくて、併せて行っていくというところを考えています。

続けて、右側の食品ロス削減推進計画に移ります。項番 1 の現行計画の実績については、先ほどの発生抑制と同じとなりますので省略をさせていただきます。続いて 10 ページのフードドライブの実施回数についても、先ほどと同じとなっています。

続いて項番 2、現状の分析というところで、家庭系のところで、少しここで項目出ししたものとしまして、丸 4 つ目です。フードドライブの常設窓口認知度が 8.3%というところで、こちらは取り組んでいただいている方が増えている現状にはありますが、本格実施してから、令和 2 年からですので日が浅いとは言い過ぎですが、これからまだ周知が必要と考えています。事業所において、食品ロス、消費・賞味期限切れや食べ残しについては、消費・賞味期限切れが 50.5%、食べ残しが 45.5%ですが、飲食サービス業に限定した場合には、食べ残しが 62.7%となっています。その下の取り組みについては、先ほどの記載のとおりです。

最後のタベスケ等の区の取り組みへの参加意向というところですが、こちらについては、食べきりチャレンジ参加希望、いたばし×タベスケ参加希望ともに非常に低い数字となっています。こちらをどう捉えるかというところが今後の課題だと思っています。

右側にまいりまして、組成調査結果です。可燃ごみ中の 9.4%が食品ロスというところですよ。約 1 割というところですよ。現状の可燃物、可燃ごみについては、おおよそ 9 万トンです。9 万トンを可燃ごみとした場合は、そのうち 8,000 トンというところで、相当程度の食品ロスということがあると認識をしています。そのため、こういったところの食品ロスに注力、特化していくことが必要だと思っています。

最後の、その下については、各業種の分類です。可燃、不燃、その他の分類となっています。星印で飲食サービス業の厨芥の多さというところが他から比べると際立っているところがありまして、こうしたサービスの皆さまと、どういう協力ができるのかについては、検討が必要と考えています。

続いて 12 ページをご覧ください。上の自由意見としては、スーパーなどで食品ロスを減らす取り組みを強化してほしい、PR をしてほしいというところについてのご意見がある状況です。

項番 3、振り返りと課題です。こちらは先ほどの発生抑制と若干重複するところがありますので、少し抽出してご説明します。

丸 1 つ目としては、区民の 92.8%が何らかの食ロス削減に取り組むを実践しているものの、食品ロス排出量が区収集可燃ごみの約 1 割と推定されることから、さらなる取り組みが必要であるということです。まさにこれが食品ロスの計画をつくる意義であると考えています。

丸 2 つ目は、こちらは先ほどの再掲部分になりますが、区民の食ロス削減の実践度は高いが、さらなる取り組みへの関心・許容度があることから、こうした関心の高さを行動につなげるという内容です。

3 つ目としては、事業系のうち、業種別の可燃ごみ量、可燃ごみに占める厨芥の割合が飲食サービス業において特に高いことから、優先して取り組むことを検討する必要があるというように整理をしています。続いての部分には、先ほどの関心の高さ、行動を後押しするということが書いてあります。

最後の丸は、食品ロスは、ある種、特殊というか特徴的なものと思っていまして、食品ロス削減は、家庭系、事業系ごとに事業を行うとともに、相互に関係するもの、または食品を必要としている主体と連携して取り組むことが可能かつ有効であり、協働する仕組みの拡大を検討する必要があると整理をしています。現在でも、フードドライブで集めたものを社会

福祉協議会さんや区のフードバンク団体さんと協力をしまして、必要な方にお届けを、手渡すようなことを実施していますが、また、先ほどの、食べきりチャレンジ、タベスケについても、いわゆる飲食店の方、あるいは小売店の方と区民をつなぐというところで、Win-Winではないですが、双方が協力してできるというところが、食品ロスに特に取り組むことができるポイントだと思っています。

最後に右側は方向性です。「食べ物、ごみじゃない。くらし・しくみ・つながりで、『もったいない』を社会の力に。」と記載しています。施策例を以下に掲げていますが、まずは1つ目として、家庭・事業・流通のそれぞれに対する施策の明確化というところで、それぞれの、家庭系については食べ残し防止、買い過ぎ・つくり過ぎ抑制、食品管理スキルの普及、生活者属性別に応じた行動提案型メッセージというところで、実際にこうした取り組みについては、世帯構成や実際に取り組める余力があるかによって変わってくると思っています。また、外食が多い、少ないもあります。そういった生活属性別にメッセージを行うということを考えています。

また、事業系などについても、普及の仕方、あるいは、それを、いわゆる廃棄物を減らす取り組みといったことに関する普及啓発ということは考えていきたいと考えています。また、併せて先ほども申し上げましたが、フードバンク、フードシェアリングサービスとの業務提携の支援というところで考えています。

項番2つ目は、食品ロス量の見える化とKPI導入です。こちら、いかに見える化をするかということが大事だと思っています。こちらは実際に、今回については計画を策定するに当たって、いわゆる実態調査を行っています。一方で、こちらの費用としては、数百万かかるものですので、いわゆる毎年実施できるのかどうかという事を踏まえて、いわゆる実際の実態調査を行うのか、あるいはそれに代わる推計モデルをするのかというところは、研究が必要ではと思っています。

また、フードドライブやシェアの成果を量で表示するダッシュボード化、見える化というところの部分です。最後に、食品ロス削減協力店、または削減量の増加という部分です。

最後の3番は、共感と連携による「もったいない文化」の定着というところです。フードドライブ拠点数増加または提供料増加というところで、現状では皆さん、非常に前向きに捉え、前向きといえますか、ご活用いただけるという部分があります。こういったものを、まずは認知を高め、または気軽に出していただけるというところについて考えたいです。一方でリデュースという話がありますので、そもそもは買い過ぎないというところがあるのですが、やむを得ず出してしまうものについては、こういったものがあるというところで、幅広くリデュースから、その次の策というところを思っています。

また、いわゆる若者向けキャンペーン、レシピ動画、もったいない投稿というところで、こういった、いわゆる横のつながりや、あるいはファンコミュニケーションではないですが、そういったコミュニケーションもあると思っています。そういったものは昨今のSNS施策として、他の自治体でも導入している部分はありますので、そういったものを研究しながら、区での取り組みというところに落とし込んでいくというように考えています。

最後に、食育・福祉・防災との連携ということで、ローリングストック支援、こども食堂、

福祉連携というところで、先ほどの振り返りと課題の部分にもありますが、自治体内あるいは板橋区内という行政内、区役所内、あるいは区役所の外という部分がありますので、そういった連携については広くお声がけをする、については考えていきたいと思っています。長くなりましたが、2項目については以上です。よろしくお願いします。

○会長 ありがとうございます。ただ今ご説明いただいた部分に関して、ご意見やご質問等ありましたらお願いします。いかがですか。

○委員 申し訳ないのですが、「タベスケ」とは「何の意味」ですか。

○資源循環推進課長 はい。タベスケはアプリやウェブのサービスになっていまして、いわゆる食品を販売しているお店やそういったところが、賞味期限切れのものを、あしたには賞味期限になってしまうものをアプリ上ないしウェブ上で出展をします。それを区民の人が見つけまして、そこに買いに行くという仕組みになっています。その分、いわゆる安く提供していただくような仕組みになっています。

○委員 それは外部企業がつくったシステムですよ。それに板橋区が乗っかっているわけですか。

○資源循環推進課長 はい。そのとおりです。

○委員 関連して質問させていただきます。区民の方は機会があれば使ってみたいと60%近くがおっしゃって、業者の方、サービス提供側の方は、あまり関心がないというその差は、多分うまくWin-Winになっていないのではと思ったのですが、課長の目から見て、どのようなシステムで、どのような改善点が可能なのでしょうか。

○資源循環推進課長 はい。現状は、いわゆる事業者さんというお店に伺いますと、「うちは生ごみが出ないから大丈夫だ」というお答えを頂くことがあります。なので、恐らく取り組みを強化していただいているというところで必要ないという部分があるということをおっしゃる方もいるかと思っています。区の事業所といいますか、お店の中には、実際に食品ロスが発生しているところもあると思います。無理やり使う話ではないと思いますので、必要な範囲でタベスケを有効にご利用いただければと考えております。現状は、成功事例を1つでも積み上げれば、それが拡散するということに思っているのですが、なかなか件数が増えないので成功事例の蓄積自体が難しいと思っていまして、その広げ方や利便性などは考えていきたいと思っています。

ただ、タベスケのサービスで、情報を投稿するという作業をなかなか面倒と感じられる方もいらっしゃると思います。そのハードルはどうしても高くなってしまうので、そこは事業者とも話しながら、今後は技術革新があるのかないのかについては注視をしていきたいという状況です。

○会長 ありがとうございます。ほかにいかがですか。

○委員 タベスケに関連して、自由意見のところ「他県から引っ越してきた際に、食品ロスの情報を自分で調べるのが大変だった」とあります。今の若い方は、特に板橋区さんも単身者が増えてきて、スマホだけで見ていくわけですね。この辺が、うまくマッチングできていないのではと思います。私も、スマホで全部を検索するのは容易ではないと思ったりもします。PCはPCで、またいろいろな情報があり過ぎて、なかなか検索が大変だということが

最近の事情だと思います。何か解があるわけではなくて、その辺を「どう表示していく」のかというところです。

○資源循環推進課長 ありがとうございます。まさに情報発信の部分にもなりますが、区としてはあらゆるサービスを情報提供したくなるものなのですが、なかなか、その中で、先ほどの単身世帯や、人によって必要とする情報が違うという部分があるので、そういった意味での情報のマッチングというところについては、当然、今後も考えていかなければならないと認識しているところです。

○会長 ほかにはいかがですか。お願いします。

○委員 飲食店に生ごみが多いということは驚きました。普通に考えれば、ごみが多くなればもうからないわけですね。おいしくなければ残されて、つぶれてしまうということもあると思いますが、一般的に考えればそんなに、出たものではなくて調理前というか何というか、僕はあまり料理をしないので分からないのですが、下ごしらえの時の廃棄が出てきてしまうのではと僕は思ったのです。

宴会料理のような、食べたくないのに来てしまうということはあると思いますので、そういうところをターゲットにしていったほうがと思います。逆に小さいお店は、例えばラーメンが食べたいなど、自分たちで食べる量を取るのが普通だと思います。そうすると食べることが多くなる部分があると思うので、ターゲットにするのは、そういう宴会をやっているようなところですね。始めと終わりを食べましょうというようなことを、区も一時期はやっていたと思うのですが、そういう切り口や、そういうところをターゲットにしていかないと、やみくもに食べ物屋さんにごみが多いというところは少し違うのではという部分は、見ていて思いました。

○資源循環推進課長 ありがとうございます。実際に厨芥というものは、いわゆる食ロス、食品廃棄物は、食べられないものを含めての部分になりますので、そういった点ではおっしゃるとおりで、食べられないものについても入っていると思っています。一方で、先ほどのアンケートの中で、食べ残しが多いというような、賞味期限切れや食べ残しが多いというアンケート結果もありますので、恐らく事業者さんの調査の認識としては、いわゆる食べ残しも一定数は出ているのではと思っています。

あとは、先ほどの宴会については、これは板橋区だけの取り組みではないですが、いわゆる 3010 という、30 分、終わり 10 分というところについては今も実施をしているところです。こういった取り組みで、いわゆる忘年会シーズン、あるいは新年会も含めてかもしれませんが、そういった中でどのように、事業者の方に注視するというよりかは、実際に食べる方に注視するのかということの一つの課題だと思っています。

○会長 ありがとうございます。最初のほうでデータをお示しいただいたところで、事業者さんの排出する廃棄物、特に厨芥類が多くて、そこをどうにかしなければいけないというところは、やはり重要なポイントになってくると思います。タベスケさんもそうですし、そのほかの区の活動などに、あまり積極的に関与する感じではないというところを、どう巻き込んでいくか、その辺も何とか施策の中にいろいろと入れていただければと思います。

最後のほうに、こども食堂との関連も書かれているのですが、今は社会福祉協議会を窓口

にということだったと思うのですが、そうではなくて、例えば地域の中で飲食店やお店をやっているところから直で、こども食堂とうまくつなげられると、もう少し事業者の方もやりやすいのではと思います。どこかのサービスに、どこかに持って行ってではなくて、いろいろとそういう取り組みというものは、地産地消ではないですが、近くで回るほうが恐らくいいと思いますので、そういったことも考えながら、いろいろと何とか事業者の方も巻き込むような施策を考えていただければと思います。

それから、食べきりチャレンジ、食べきりコンテストなどは、SNS との相性も非常にいいと思いますので、先ほどの普及啓発のところもそうですが、ぜひ区民の方や多くの方を巻き込んで、こういうイベントを、はやるといえるか、広げていただければと思います。有名 **YouTuber** や、そういう人が、料理研究家のような人が入ってくると、とても盛り上がっているのではと思います。

あとはサービスです。ヤフーオークションやメルカリ、ジモティーなどというサービスを軽々と使う世代の方々にとっては何の問題もないと思うのですが、そういうものを使えばリユースなどがうまくできそうだけれども、やったことがないからというような、心配だという方に対するアプローチ、「このようにやれば安心です」「こういうことに気を付けてサービスを使いましょう」など、そういう情報発信などもやっていただくと、今度は上の世代の方に、こういうデジタルといえるウェブサービスを使っていただくきっかけになるのではと思います。

先に私がコメントしてしまいましたが、ほかにはいかがですか。

○委員 フードドライブについて少しご質問したいのですが、フードドライブという名前が全然響かないのです。もっとやっている事業と名称がきちんとイメージできるような名前に変えたらどうでしょうか。それは私からの提案です。

それから、フードドライブに関してもう 1 つです。区民の目に触れるようなシチュエーションが少な過ぎます。どこの支援センターでフードドライブのようなものがやっていますと調べたら分かるのですが、それは区民の何とかセンターの 2 階の奥のところで行っているなど、そんなところに人は来ません。やはり商店街など、人が通って、きちんと目に触れるところで露出して、こういうことをやりましょうという形に展開しないと、いつまでたっても大きく展開しないと思います。そこら辺のアドバイスをしたいと思うのですが、どうでしょうか。

○資源循環推進課長 ありがとうございます。フードドライブという名称がありますが、板橋区版の新しい名称を考えるなど、そういうところは一つのアイデアだと思います。その辺は、どこまでできるかという話がありますが、貴重なご意見として参考にさせていただければと思っています。

また、そういった、フードドライブをなかなか目にすることがないというところですが、いわゆる常設しているもののほかに、イベントごとに集める機会を設けています。それは数が多いかという、なかなかそういうわけにはいかない、これもマンパワーという部分がありますが、そういったイベントごとの機会を増やすなどについては、できるかできないかという部分を含めて、一つの考えるところだと思っています。ありがとうございます。

○委員 区役所の1階に、もっとディスプレイをたくさん増やしてもいいのではと思います。せっかく一般の人がたくさん来るところに、そういうポスターを貼る、コーナーをつくって販売するなど、マンパワーの問題は当然あると思いますが、そういうことをされたらどうかと思います。

○会長 どうぞ。

○委員 18の地域センターがあるそうですが、ここは何をやっているところなのでしょうか。私が住んでいるところのコミュニティーセンターとだいぶイメージが違うのではと思ひまして伺いたいです。

○資源循環推進課長 地域コミュニティーの活動の相談を受けたり、支援をしたりする仕組みとなっていて、青少年健全育成や環境に関する行動の支援をしたり、そういったところを行ったりしているところです。また、地域センターでは集会施設を持っていますので、そういったところの貸し出し等も行っています。

○委員 では、ごみの出し方などは、この地域センターでも教えてくれるのですか。この自治体は、そこが分かっているような気がします。

○資源循環推進課長 はい。地域センターの職員が、ごみの、分かる範囲ではご説明することがあると思いますが、詳細になりますと、いわゆる清掃事務所をご案内したり、あるいは本庁舎をご案内したりという形になると思います。

○委員 やはり縦割りなのですね。

○会長 そこは一つの行政なので、それは仕方ないと思います。

○委員 この区は結構、電柱や集積所に、可燃・何日、不燃・何日など、見た感じで分かるようにはなっているのです。集積所などで普通に見れば、今日は可燃の日だという、要は月、火、水、木が分かればということですが、そのようになっていることはなっています。誰が見ても「今日はリサイクルの日だね」とか、そういうことはきちんとなっています。別に区の味方をしているわけではないですが、そのようにはなっているのだと思います。

ただ、深掘りした詳細情報につきましては、さすがに掲示板に貼れる面積もあるでしょう。でも最低限の発信は、かなり23区はしている地域だと思います。ほかの地域で、あまりそんなにぺたぺた貼っている地域は見たことないような気がします。ほかに、もっと貼っていますというところもあるかもしれませんが、見た感じからすると、今日は可燃の日だとか不燃の日だということは一目瞭然のような気が、僕はしています。

○委員 板橋区は厨芥は36%ある、水切りも、きちんと努力していらっしゃると思います。クリーンセンターの処理の仕方を見に行くのは遠いので、板橋区さんのお子さんや住民の方は見に行けませんが、燃やす時にごみは混ぜて焼却炉に入れているわけですね。底の方に水分が結構たまっていってしまうのです。そこで、水切りがいかにか、なぜ大事かということなのです。住民が個別的に考えられるのではないのです。ですので、そういう個別的な対応で、いや、そのことはあちらですとか、今日は、私、来て質問したら「7階に行ってくれ」って言われて、そこではないと思います。引っ越してきた人などはもっと詳しく、どう対応して暮らし方を自分で意思決定できるかというところの情報が無いというところが悩ましいという感じがします。自治体によって情報の提示の仕方が少し違うという感じがします。

○副会長 すみません。今の情報に関してなのですが、人手不足の中で、全職員に全ての知識を身に付けろということは相当難しいところだと思います。大学などでもチャットボットを使うようになってきていまして、事務職員が答えられないことは、AIに答えさせています。板橋区の情報が入ったチャットボットをつくるなど、少し情報発信に向けて、若い世代にも遡及するものだと思いますし、そういった形であれば、どんな言語でも出力できますので、そういうAI活用もご検討いただいてもいいのではと思いました。

○会長 確か板橋区のLINEは、もうそれができるようになっています。

○資源循環推進課長 区のごみの出し方で、粗大ごみのページに行きますとAIチャットボットがありまして、これは何ごみということを入れると出てくるものになっています。全体として、DXやAIの推進は区全体で進めている部分がありますので、ほかの自治体のサービスを研究しながら今後進めていくのではと想定するところです。

○会長 そのほかに、お願いします。

○委員 結構あちこちに消費期限・賞味期限切れということが書かれています。実際に切れてしまうと、おなかを壊してもいけないし、お店で中毒を出してもいけないので、食品ロスではあるのですが、これは捨てるしかないのではという気持ちになるわけです。ここで、あちこちにそれが登場しているということは、これを捨てるのではなく、これを買い過ぎるな、あるいは切れる前に食べろなど、そういう方向に持っていきたいという意味で書いてあるのでしょうか。

○資源循環推進課長 賞味期限・消費期限切れを起こさないことが当然というか、そういったことにならないような買い方の工夫を啓発するということもあります。なので、食べきれただけ買うということで、よく手前取りという言い方がありますが、奥から牛乳なり何なりを取るのではなくて、手前から取るというところの啓発ということも、いわゆる今食べられるものを食べられる分だけ買うということの啓発というものは重要だと思っています。

○会長 そのほかは、いかがですか。よろしいですか。非常に多くのご質問やご意見が出たと思います。具体的な施策の資料を作成していただくと、このようにいろいろと、また出てくるといいますし、今日は、また後で、これを言いそびれたとか、意見がもう少しあったなどがありましたら、また1週間をめどに、1週間以内に事務局さんのほうにご連絡いただければと思います。また、その内容も含めて次回以降に、次、次の次といったところの部会に反映していただくようにしたいと思います。

ほかに何か事務局からあればお願いします。大丈夫ですか。

○資源循環推進課長 はい。ありがとうございます。本日はさまざまな意見を頂きまして、ありがとうございました。頂いた意見を踏まえまして、現行の資料や今後の説明の仕方については整理をしてまいりたいと思っています。ありがとうございます。

○会長 次の第3回の清掃・リサイクル部会は、5月27日に予定されています。およそ1か月後になります。また14時半から同じ会議室ということになっていますので、よろしく願います。以上をもちまして、第2回の清掃・リサイクル部会を閉会したいと思います。どうもありがとうございました。

○一同 ありがとうございます。